

石クリ通信

9月号

二つの世界

事務局長

石川 都

コロナ禍の日々での私の最大の変化は、コンタクトレンズを止めたことによる視界の激変である。東京の順天堂で日本初のコンタクト外来が始まった五十年近く前からずっとハードのレンズをつけていた。さらにこの何年かは遠近両用コンタクトに変え、起きていたはずとつけてばなしで快適に過ごしていた。ただ加齢とドライアイで感染も心配だった上、コロナで眼科通いも躊躇したため、思い切ってコンタクトを止め、眼鏡(度付き透明サングラス)に変えた。

しかし半世紀もコンタクトだったので、未だ眼鏡に慣れず、日々四苦八苦している。戸外や運転時はもちろん眼鏡をかけるが、室内や読書の時は(老眼は弱いため)眼鏡をはずした方がよく見える。ただ裸眼も乱視が強いため、テレビの文字や楽譜、人の顔などは少し離れると識別できない。対象との距離によって、眼鏡をかけるかどうかの判断が難しい。今はコロナで毎日マスクをしているので、眼鏡も曇って鬱陶しい。さらに年のせいか、慣れない眼鏡はいつたん外すと探し回ることになり、自己嫌悪に陥る。窮余の策としてクリニク内では両方つけたまま、頭に眼鏡、顎にマスクという珍妙な姿で仕事をし、外出する際はそのまま眼鏡を上から下ろし、マスクを下から上げて車に向かう。時に出先でマスクを顎から上げられると、訝しげに見られるも厄介なご時世である。ただ物は考えようで、世界の見え方に二種類、明晰な世界とおぼろげな世界があるのは面白い。世界をはっきり見たいときは眼鏡をかけ、外界より自己の内を沈潜したい時は眼鏡をはずせばいい。ただ裸眼の時に知人と会ってもわからず失礼することもあるので、その際はどうかご容赦下さい。

今年の夏

看護助手

柴田 さち子

新型コロナウィルスのため、小学校、中学校、高校と、夏休みも少なくなり、皆感染に気をつけて外出も控え、海やプールも禁止になりました。孫の家でも、昼にバーベキュー、夜は花火、翌日は流しそうめんなど、家でもストレス発散できるように、イベントをいろいろ考えて楽しんでいきます。皆でコロナウィルスの感染に気をつけていても、まだまだ感染が続いています。うがい、手洗い、マスクと、一人一人が濃厚接触しないように心がけましょう。



日立にもやってきた！

看護師

澤田 彰子

以前テレビで、沖繩発のふとんを丸洗いでできるコインランドリーを見て、近くにあつたらいいなあと思っていたら、何と7月に大沼にもOPENしました。早速子供が使っていた布団を洗ってきました。洗ってから乾燥まで1時間ちょっとでふかふか布団になりました。もつと早く出来ていたら子供がおねしょした時叱らなくて済んだのになあと思えました。

祝！第100号

事務

田所 弓佳

みなさんお気づきですか？前回の号でなんと記念すべき第100号なんです！！毎月毎月お読みいただきありがとうございます。書く方の私からしたら毎月締め切りに追われるばかりです(汗)が、しかしお読みいただいた方からの感想を聞いて毎月頑張ります！私の身近での出来事を書いてるのでつまらない役に立たない内容ではありますが、今後もお読みいただけると思います。

梅酒のその後

事務

森 多加子

石クリ通信7月号で梅酒作りに初挑戦したことをお話ししました。梅酒を仕込んで約3か月が経ちました。無色透明だったリキュールが少しずつ色づき、2か月を過ぎた頃には綺麗な琥珀色になりました。まだ飲み頃ではないのですが、待ちきれず少しだけ味見をしました。梅の爽やかな香り、適度な酸味。思っていた以上の出来に大満足！半年後、1年後にももつともつと美味しくなると思いますが、それまで残っているかわかりません。

小さな畑

通信・ウェブ担当

石川 香

庭を整備した時に、一角に小さな畑を作りました。頻繁に買われる、ちよつと食卓の足になる野菜を育てるのが目的です。まずはハーブ類、タイムとオレガノ、ミント、パセリ、バジルを植えました。その後、下の子生まれた時『誠史』という名前にちなんでゼージを色々な種類植えました。シソやミヨウガなどの日本の薬味と、パクチーも。新鮮なハーブは香りが格別です。更にミニトマトもバジルと仲良く植えました。今年の梅雨は日照時間が少なく成長が今ひとつでしたが、梅雨明けするとぐんぐん成長し、豊作でした。来年はもう少し作付面積を増やし、スナッパえんどう、インゲンなどの豆類とキュウリに挑戦したいです。

オンライン診療

院長

石川 悟

新型コロナウィルス流行の前からオンライン診療が健康保険で認められていましたが、あまり普及していませんでした。コロナ禍による新しい生活様式が提唱され、オンライン診療の優遇、さらに初診にも適応することによって、都市部では利用する医療機関が増えているようです。

パソコンやスマートフォンを使って、予約時刻にインターネットで診療、処方箋を送ってもらって、カド決済、と非常に便利な側面があるのは確かですが、本当にそれでいいの？というのが偽らざる実感です。高血圧症で降圧剤を服用している人が家で血圧を測定、ほとんど変化ないので、薬を処方してもらおうという状況では確かに問題ないでしょう。しかし初診のほとんどの患者さんでは、診察(身体所見)、尿検査、X線検査(当院にはありません)、超音波検査、血液検査などが必要になってきます。精神科疾患など特殊な場合を除いて、初診の人をインターネットで診療して薬を処方するのは、常識的には考えられません。先日東京の成育医療センターが「セカンドオピニオン外來」をオンラインで行うと報道されました。地方に住んでいる治療のなだろから、専門家の意見も聞いてみたい、と思う人は少なからずあります。検査データをしっかり揃えた上で、遠方に出かけることなく、オンラインで専門家の意見を聞けるのは、非常にいいシステムだと思います。

メダカ

看護師

太田 小百合

今回は我が家のメダカを紹介します。水槽には、ヒメダカ(ヒメちゃん)、シロメダカ(シロちゃん)、アオメダカ(アオちゃん)、光メダカ(こうちゃん)、楊貴妃メダカ(女王さま)の五匹がいます。子供の頃川や田んぼにいたメダカと違って、今では昔は見られなかつたような色や形のメダカが沢山いるようです。五匹のメダカにもそれぞれ特徴があつて、見ていてとても楽しく癒されます。ちなみに私のお気に入りのシロちゃんはヒメちゃんが好きみたいで、いつも一緒に泳いでいます。今後はメダカの繁殖や水槽のデコレーションにも挑戦していこうかと思っています。

